

静岡県立静岡城北高等学校 令和4年度 第3回 学校運営協議会

1. 日時：令和5年2月8日（水）午後1時20分～3時
2. 会場：本校会議室
3. 出席者

学校運営協議会委員

大高千尋 氏	同窓会関係者	(同窓会長)
河原正哉 氏	企業関係者	(ソニー生命保険株式会社)
北川展裕 氏	PTA・後援会関係者	(後援会長・学校運営協議会会長)
杉山 誠 氏	地域関係者	(大岩二丁目会長)

静岡城北高等学校

校長	吉永卓志
副校長	渡部健一
教頭	石原 忍
事務室	米山敏彦
総務図書課	吉川契子

4 議事内容

(1) 開会

(2) 吉永校長挨拶

本校ではコロナ・インフルエンザとも感染状況は、幸いに落ち着いている。

2月15日より17日まで、高校入試の志願受付。普通科は定員を超える見込み。グローバル科は例年、定員ぎりぎりの状況が続いている。グローバル科は、時代の流れに合致した特色ある教育に取り組み生徒も生き生きと活動している。こうした取組を中学校や地域に知っていただき、グローバル科を選ぶ中学生を増やす必要を感じる。

高校3年生は今週より家庭学習。私立大や国公立大の受検の最後の追い込みをしている。現時点で3年生約280人中、80人程度の進路が決定。残りの生徒のうち120人程度が国公立大学を受験予定。

日本の学校では、学習指導要領に基づいて教育活動が行われているが、現在「探究」を中心に据えた教育が進められている。

これまでの受け身の姿勢から、主体的に課題を見つけ解決を目指す力を身につける仕掛けを多く作っている。そこに現1年生は一人一台端末が導入され、生徒たちは工夫して活用し始めている。

本校では、これまで紹介しているとおり、地域との連携を深める「城北スマイルプロジェクト」を核に探究活動を進めている。

こうした学校での活動に感化され、様々な大会・イベントに自主的・主体的に申し込み、優れた成績を取める生徒たちが出始めたことを大変誇りに感じる。

現在、校則の見直しが大詰めを迎えている。細かい規定を取り除き、生徒達が自分達で判断する力を養う場面としたい。易きに流れ規律が乱れる恐れもないわけではない。そこで踏みとどまることができるのが城北生のプライドだと思っている。温かく厳しく見守っていただきたい。

悪いところを指摘するよりも、よいところを認め評価するほうが、自己肯定感が高まり、人は実力を発揮しやすく伸びるという研究がなされている。昭和世代の私は半信半疑のところもあるが、多くのところでこうした考えを取り入れた教育が広まっているので、本校でも取り入れることにした。生徒の良いところを探す観察と、負荷をかけて乗り越えたところで褒めることを大切にしてほしいと呼びかけている。

本日はこうした1年間の取組を報告し、皆様から評価をいただく機会とした。

(3) 北川会長挨拶（以後司会担当）

冬らしい寒い日が続いている。インフルエンザが増えている。ウィズコロナの中でいろいろな活動も復活しつつある。健全育成会の大会も3年ぶりに会を催し、久しぶりに子供の笑顔が見られた。以前の活動にもどり笑顔が見られることはよい。

(4) 学校の概況報告

① 渡部副校長

資料に即して、令和4年11月以降の本校の行事や入賞実績・新聞記事等の紹介。「花と緑の町作りコンクール」最優秀賞受賞、グローバル科の行事、等。1年生は学習用端末が導入され、朝のSHRや授業で利用している。

② 石原教頭

部活動大会等結果や顕著な活躍等の説明。

「全国探究コンテスト」に参加した本校生徒（白石咲璃さん・白石咲季さん）が審査を通過し全国の中で選抜され発表を勝ち得た。サッカー部内藤崇文さんは、サッカー海外遠征にユースレフリーとして派遣される。体操部が全国大会出場、県大会にテニス部・弓道部が出場。

(5) 令和4年度関係者評価

資料「令和4年度 学校経営報告書」説明…石原・渡部

アンケートの結果と各分掌・教科・学年から提出された達成状況・自己評価により、成果目標に対する達成状況・成果と課題についての報告書を取りまとめた。

「つながる力の育成」について。自己有用感の育成やコミュニケーション能力の育成等への評価。

「みつける力の育成」について。進路選択や学力向上・読書等について評価。

「行動する力の育成」について。家庭学習時間・ボランティア活動・部活動・国際科／グローバル科の学びの参加等への評価。

「考える力の育成」について。ICT・主体的対話的で深い学び・探求等についての評価。

「英語力の育成」について。卒業時に英検2級、CEFR B程度の資格取得等の状況について。

「安全・安心な学校」について。

挨拶ができる生徒の割合について、生徒の評価は高いが教員としては今一步と考えている。交通違反197件 昨年度と同じ件数だが交通事故は増加 自転車ルールマナー今後も啓発の必要、等が話題提供された。

【質疑 等】

北川：外部人材の活用について。将来的に部活動統合なども検討しているか？

石原：いくつかの部活動の統廃合検討。近隣校との併合や部活動の廃止も検討。

杉山：「やめる・かえる・へらす」についてコメント。

河原：部活動指導の状況について。

吉永：教員は、生徒が好きで関わってやりたいというサービス精神旺盛な人が多く、部活動指導はこうした教員のボランティア精神に甘えてきたという反省もある。教員の志願者が減少している。男女共同参画政策により男性も育休を活用する時代。特休等による欠員も生じている学校もある。求める人材を確保するための倍率は、最低4倍と言われるが、多忙化→人気が無い→なり手が無い……の悪循環 教員自身の意見も変化し「それはできない」と言うこともある。テストの自動採点システムの岐阜・三重・愛知では導入している。県内でも導入している学校もある。教員の負担が減るとの報告がある。

杉山：最近高校生がたむろしているのを見かけないが、高校生が夜遅くまで騒いで食べたものを捨てている場合がある。行っている場所（道路か店舗敷地か）の区分により注意すべき担当が異なる。

自転車のマナーについて。ヘルメットは努力義務。交通違反は取り締まり

が必要だが自転車のルールは曖昧である。

石原：マナーが悪いときその場で指導しないと自分事ととらえない生徒もある。

吉永：PTA 会費で朝 2 時間、交通指導員を雇用し、街頭指導をお願いしている。

SNS の指導は専門家による正しい使い方指導をしていただいている。

杉山：SNS で情報を発信するとあらゆる情報が流れるので注意が必要だ。

〔「令和 4 年度 静岡城北高等学校 学校関係者評価用紙」に、各学校運営協議会委員による評価を記入いただいた。〕

(6) スクールミッションポリシーの紹介 (吉永校長)

「令和 5 年度 静岡県立静岡城北高等学校 グランドデザイン (案)」

資料に基づく説明。スクールミッション・5つの力・スクールポリシー・スクールポリシー具現化の柱。行事は、必ず5つの力と関連付ける。

【質疑 等】

河原：中学生に来て欲しい求めるものを冒頭に示した方がわかりやすいのでは

校長：公立高校統一した書式による。

本校は来年度 120 周年を迎えるが、校訓は、中学生が見たときピンと来ない。もっとわかりやすくすべきだというのが、スクールミッション、スクールポリシーの策定理由である。(並べて一覧表にしてみると他校と差が無い。)

本校生の弱いところが行動する力。つながる力は比較的高い。

(7) 生徒心得の進捗状況 担当石原

資料に基づいて説明。今後職員会議を経て決定する

前文を置いた。多様性の観点から、男女の差を無くした。頭髪の長さに関する長さや色を指定する文言を無くした。

(8) 閉会